

# 令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

一般財団法人 東洋医学研究所

令和5年度については、当財団の事業目的ならびに当初の事業計画に基づき、下記のとおり、会議及び各事業を実施した。

記

## I 公益目的支出計画

### 1. 公益目的支出計画実施状況

① 期首公益目的財産残額	65,602,056 円
② 公益目的収支差額	2,398,006 円
公益目的支出額	2,818,006 円
実施事業収入額	420,000 円
③ 期末公益目的財産残額	63,204,050 円
(当初計画との差異)	▲1,482,585 円)
④ 公益目的支出計画の完了予定期末日	令和45年3月31日

### ※ 公益目的支出計画 (参考)

公益目的財産額 (当初)	81,586,635 円
公益目的収支差額見込額 (期間中平均)	1,690,000 円
公益目的支出計画の完了予定期末日	令和45年3月31日
公益目的支出計画実施期間	49年間

### 2. 公益目的財産額・純資産額推移

(単位：円)

	公益目的支出計画	① 公益目的財産残額	② 純資産額	②-①	(医療+法人損益)
H26.3 末	81,586,635	81,586,635	81,586,635		
H27.3 末	79,896,635	79,977,621	86,857,118	6,879,497	6,879,497
H28.3 末	78,206,635	78,262,165	86,331,219	8,069,054	1,189,557
H29.3 末	76,516,635	76,823,371	86,847,337	10,023,966	1,954,912
H30.3 末	74,826,635	74,776,055	86,142,392	11,366,337	1,342,371
H31.3 末	73,136,635	72,954,915	81,569,612	8,614,697	▲2,751,640
R 2.3 末	71,446,635	70,845,002	76,138,989	5,293,987	▲3,320,710
R 3.3 末	69,756,635	69,340,718	74,411,631	5,070,913	▲223,074
R 4.3 末	68,066,635	67,717,534	74,428,597	6,711,063	1,640,150
R 5.3 末	66,376,635	65,602,056	67,232,714	1,630,658	▲5,080,405
R 6.3 末	64,686,635	63,204,050	60,717,297	▲2,486,753	▲4,117,411

## II 会議

### 1. 理事会

(1) 第1回 令和5年6月8日(木)

- |      |       |                         |
|------|-------|-------------------------|
| (議事) | 第1号議案 | 令和4年度事業報告書(案)の承認について    |
|      | 第2号議案 | 令和4年度決算報告書(案)の承認について    |
|      | 第3号議案 | 公益目的支出計画実施報告書(案)の承認について |
|      | 第4号議案 | 令和5年度定時評議員会開催について       |

(2) 第2回 令和6年3月7日(木)

- |      |       |                                    |
|------|-------|------------------------------------|
| (議事) | 第1号議案 | 令和6年度事業計画(案)について                   |
|      | 第2号議案 | 令和6年度予算(案)について                     |
|      | 第3号議案 | 電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程(案)について |
| 報告事項 |       | 令和5年度業績見通しについて                     |

### 2. 評議員会

(1) 定時(第1回) 令和5年6月23日(金)

- |      |       |                      |
|------|-------|----------------------|
| (議事) | 第1号議案 | 令和4年度事業報告書について       |
|      | 第2号議案 | 令和4年度決算報告書(案)の承認について |
|      | 第3号議案 | 公益目的支出計画実施報告書について    |
|      | 第4号議案 | 任期満了に伴う評議員の選任について    |

(2) 第2回 令和6年3月7日(木)

- |      |       |                                    |
|------|-------|------------------------------------|
| (議事) | 第1号議案 | 令和6年度事業計画(案)について                   |
|      | 第2号議案 | 令和6年度予算(案)について                     |
|      | 第3号議案 | 電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程(案)について |
| 報告事項 |       | 令和5年度業績見通しについて第1号議案                |

## III 役員等の就任・退任

### 【理事】

令和5年6月24日任期満了に伴い、以下のとおり選任を行った。

- |      |         |           |
|------|---------|-----------|
| (就任) | 理事(理事長) | 櫻井 康司(再任) |
|      | 理事      | 本間 生夫(再任) |
|      | 理事      | 田中 滋城(再任) |

任期：令和7年6月開催の定時評議員会の終結の時まで

※評議員、監事は変更なし

#### IV 公益事業（研究・啓発部門）

##### 1. 研究部門

当研究所の目的である東洋医術の医学的研究活動を、基礎及び臨床におけるテーマに基づき、鍼灸並びに柔道整復分野の所内研究グループにて実施し、その成果について学会発表・学会誌投稿等を行った（計 31 題）。各グループの研究内容は以下の通り。

##### [鍼灸分野]

###### (1) 鍼灸臨床研究班

（研究員：筒井宏史研究員、丸山広美研究員、中野陽子研究員、鈴木格研究員、伊丹章人研究員、橋本隆研究員）

研究テーマは以下のとおり

- ・「身体局所における皮膚応答性（閾値）の比較」－生体の刺激に対する応答性とその特性について－
- ・「耳介鍼刺激（皮内鍼）による高度肥満者に対する体重減少効果」
- ・「運動が筋緊張に及ぼす影響について」（筋緊張を筋硬度計によって定量化して評価）

###### (2) 東洋医学研究班

（研究員：木戸正雄主任研究員、光澤弘主任研究員、水上祥典研究員、東垣貴宏研究員、武藤厚子研究員）

※ 「脈診の研究」及び「経絡系統治療システム」を継続して研究。

研究業績は論文発表、依頼講演を含め 9 題。

- ① 第 72 回全日本鍼灸学会学術大会（神戸大会）【令和 5 年 6 月 9 日～11 日】  
『黄帝内経』（刺腰痛篇第四十一）における「素経脈」 - 正経十二経・奇経八脈に属さない経脈 -」（一般演題発表：木戸正雄研究員）
- ② 第 72 回全日本鍼灸学会学術大会（神戸大会）【令和 5 年 6 月 9 日～11 日】  
「脈診訓練法の開発（第 24 報）－脈診における緩脈の古典文献からの検証－」（一般演題発表：水上祥典研究員）
- ③ セイリンセミナー【令和 5 年 9 月 18 日】  
「木戸 正雄先生から学ぶ！経絡治療・VAMFIT の世界 - これから始める！」実践型経絡治療セミナー - （講師：木戸正雄主任研究員）
- ④ 埼玉県鍼灸師会 第 27 回臨床研究会 オンラインサロン - 彩 - 【令和 5 年 9 月 21 日】  
「脈診」（講師：光澤弘主任研究員）
- ⑤ 第 51 回日本伝統鍼灸学会学術大会（広島大会）【令和 5 年 11 月 28・29 日】  
出版受賞記念特別講演「だれでもできる脈診習得法（MAM）」（講師：木戸正雄主任研究員）
- ⑥ 第 51 回日本伝統鍼灸学会学術大会（広島大会）【令和 5 年 11 月 28・29 日】  
「天・地・人治療」（第 13 報）－長期経過の 2 型糖尿病患者に対する「天地人-四海治療」の例－（一般演題発表：水上祥典研究員）
- ⑦ 東洋鍼灸医学 経絡治療第 236 号 p 15～29【令和 6 年 2 月 15 日】  
「脈診を初めてはじめる人のために 第 25 報～脈状の検証④緩脈～」  
（論文発表：水上祥典研究員、木戸正雄主任研究員、光澤弘主任研究員、武藤厚子研究員、東垣貴宏

研究員他)

⑧ 第8回日本伝統鍼灸臨床セミナー【令和6年3月3日】

実技「脈診の基本と治療」(講師:光澤弘主任研究員)

⑨ 経絡治療学会 東北支部オープンセミナー【令和6年3月3日】

講演「VAMFIT(経絡系統治療システム)」(講師:木戸正雄主任研究員)

(3) 基礎研究班

(研究員:川瀬明子主任研究員 共同研究者(東京有明医療大学):高倉伸有教授、矢島裕義准教授、高山美歩講師)

※ 「鍼灸および経皮通電刺激が体性運動神経(VFR)に及ぼす影響」、「Double-blind 鍼のマスク効果」、「鍼の臨床研究」、「鍼の基礎研究\_鍼刺激が腱血流量に及ぼす影響」を継続して研究。

(4) 経穴認知班

(研究員:小川一主任研究員、橋綾子研究員、吉田麻衣子研究員)

※ フォースフィードバック装置(触覚デバイス)による刺鍼トレーニングに向けたシステムの発展(土井教授との共同研究)、経穴認知に向けた身体操作の検討、頸部の椎骨動脈と経穴からの深さとその周辺の構造の3D画像化(菊池先生との共同研究)

研究結果発表は以下の2題。

第72回全日本鍼灸学会学術大会(神戸大会)【令和5年6月9日~11日】

① 「経絡内部のエコー装置による血管の可視化 回外位・中間位での前腕肺経上のドプラ画像」  
全日本鍼灸学会学術大会抄録集72回 P166 2023. (一般演題発表:小川一主任研究員、橋綾子研究員、吉田麻衣子研究員、土井章男特命教授(岩手県立大学))

② 「頸部経穴内部の可視化及び3Dモデルの制作 後頸部の経穴と椎骨動脈の3Dデータ化」  
全日本鍼灸学会学術大会抄録集72回 P147 2023. (一般演題発表:小川一主任研究員、菊池友和主任研究員、五十嵐久佳、山口智、土井章男)

(5) 臨床治療班(附属鍼灸院研究グループ)

(研究員:吉川信主任研究員、寺師健研究員)

発表や投稿等は以下の13題。

<学会発表>

① 吉川 信:臨床からみた灸の効果,シンポジウム1.第72回全日本鍼灸学会学術総会.全日本鍼灸学会雑誌73巻別冊;54,2023.6.10

② 吉川 信:過剰な空気嚥下に伴う胸腹部症状に中府(LU01)が有効な例.第73回日本東洋医学学会学術総会.日本東洋医学会雑誌第74巻別冊号2023年;2023.6.16-18

<講演>

③ 吉川 信:東洋医学—鍼灸治療,第54期バイオメディカル・カリキュラム,東京女子医科大学先端生命医科学研究所.2023.4.8.東京

④ 吉川 信:関節リウマチの鍼灸臨床,全日本鍼灸学会近畿指定A講座.2023.9.17.大阪

⑤ 吉川 信:東洋医学—鍼灸治療,第55期バイオメディカル・カリキュラム,東京女子医科大学先端生命医科学研究所.2024.3.23.東京

<監修>

⑥ 吉川 信:鼻の症状を緩和するツボ,素敵なあしたへ(協和発酵バイオ),2023年4月号;

18-19

- ⑦ 吉川 信：耳にある胃の働きをよくするツボ，素敵なあしたへ，2023年6月号；18-19
- ⑧ 吉川 信：体内にこもった熱を冷ますツボ，素敵なあしたへ，2023年8月号；18-19
- ⑨ 吉川 信：目の疲れを癒すツボ，素敵なあしたへ，2023年10月号；18-19
- ⑩ 吉川 信：食いしぼりをゆるめるツボ，素敵なあしたへ，2023年12月号；18-19
- ⑪ 吉川 信：不快な花の不調を解消するツボ，素敵なあしたへ，2024年2月号；18-19
- ⑫ 吉川 信：3つのツボ押しで夏バテを防ぐ！2023年8月，  
サワイ健康推進課。<https://kenko.sawai.co.jp/body-care/202308.html>

<論文審査>

- ⑬ 吉川 信：代田賞選考委員会：第47回代田賞発表，Tehamo Vol3 No.3；129-133.2023
- (6) 自律神経研究班（研究員：菊池友和主任研究員）
- 研究テーマは以下のとおり。発表や投稿等は以下の5題。
- ・頭頸部刺鍼の安全性の研究—深さによる研究—
  - ・自律神経（心拍変動スペクトル解析）を指標にした鍼灸刺激の研究
  - ・全日本鍼灸学会と日本温泉機構物理医学会の共同研究—スポーツ選手を対象として温泉と鍼灸の利用調査の研究—
  - ・有明医療大学保健医療学部鍼灸学科 松浦悠人研究責任者、指導教官安野富子教授との共同研究による3Dスキャナーを用いた美容鍼によるリフトアップの研究
- ① 脳卒中後遺症に対する治療の効果とエビデンス 脳卒中後遺症に対する鍼灸治療 痛みと痙縮に対する鍼通電療法 日本東洋医学系物理療法学会誌(2)49(1)16 2024. 第49回日本東洋医学系物理療法学会学術大会・総会でのシンポジストで講演（菊池友和主任研究員）
  - ② 腰痛に対する鍼灸治療の展望 腰痛の動作再現性からみた鍼治療効果 全日本鍼灸学会雑誌 73(2)106-107.2023（菊池友和主任研究員、山口智）
  - ③ 長距離ランナーにおける入浴習慣および鍼灸に関する調査研究 疲労のリハビリ法に対する実態調査 全日本鍼灸学会学術大会抄録集 72回 スポーツと鍼灸講演 94(2023.05)（菊池友和主任研究員，金子泰久，坂口俊二，藤田洋輔，山口智）
  - ④ 頸部経穴内部の可視化及び3Dモデルの製作 後頸部の経穴と椎骨動脈の3Dデータ化 全日本鍼灸学会学術大会抄録集 72回 147.2023.（小川一主任研究員，菊池友和主任研究員，五十嵐久佳，山口智，土井章男）
  - ⑤ 腰痛に対する鍼灸治療の実際 盲学校教員研修会（2024.01）（菊池友和主任研究員）
  - ⑥ 図解鍼灸療法技術ガイドI第2版 臨床の場で役立つ実践のすべて（2024.03）  
編集主幹：矢野 忠 編集委員：坂井友実 北小路博司 安野富美子  
分担執筆 頭痛 中枢性麻痺 顔面痛（菊池友和主任研究員）

[柔道整復分野]

- (7) スポーツ・柔整研究グループ（スポーツ外傷研究班）  
（研究員：山口竜彦主任研究員、田中康文研究員、赤羽泰彦研究員、勝村洋介研究員、飯野元研究員、手島遼太研究員）  
※ 「高校生スポーツ選手の身体特性と外傷との関連性の調査・研究」を継続して研究。
- ① 第32回日本柔道整復接骨医学会学術大会【令和5年12月2日】

「超音波画像装置を用いた踵腓靭帯描出時の信頼性について」  
(山口竜彦主任研究員、手島遼太研究員他)

## 2. 啓発部門

はり、きゅう及びあん摩マッサージ指圧の各資格保有者を対象に、技術の向上と研究者の育成を目的として、以下のとおり、臨床技術研修講座を開講した。

＜第45回臨床技術研修講座（計10回）＞

※参加者総数：26名 計10回の延べ参加人数187名 講師の肩書は当時のもの

第1回（令和5年5月14日） 「天地人治療に関する実際」

木戸 正雄 先生（天地人治療会会長、日本伝統鍼灸学会評議員、日本鍼灸理療専門学校同窓会会長）

第2回（令和5年5月20日） 「経絡治療の概要と治療の実際」

岡田 明三 先生（経絡治療学会会長、神宮前鍼療所院長）

第3回（令和5年5月27日） 「脊柱管狭窄症の病態の捉え方と鍼灸治療の実際」

坂井 友実 先生（東京有明医療大学大学院保健医療学研究科研究科長、教授、同大学附属鍼灸センター長）

第4回（令和5年6月3日） 「私の考える伝統医学的診察・治療の概要と実際」

戸ヶ崎 正男 先生（日本伝統鍼灸学会副会長、和ら会代表、蓬治療所所長）

第5回（令和5年6月17日） 「スポーツと鍼灸」

宮本 俊和 先生（元筑波大学大学院 人間総合科学研究科教授）

第6回（令和5年6月24日） 「越石式知熱灸について」

越石 まつ江 先生（越石鍼灸院院長、日本鍼灸理療専門学校同窓会副会長）

第7回（令和5年7月1日） 「関節リウマチに対する鍼灸治療」

粕谷 大智 先生（新潟医療福祉大学教授）

第8回（令和5年7月8日） 「びわの葉灸による治療の実際」

深見 哲也 先生（深見灸院院長）

第9回（令和5年7月15日） 「無分流打鍼術について」

関 信之 先生（関墨荘堂、無分流打鍼継承会会長、日本伝統鍼灸学会理事、日本伝統鍼灸学会理事）

第10回（令和5年7月22日） 「M-テストによる治療法」

向野 義人 先生（元福岡大学スポーツ科学部教授）

## V 収益事業（臨床部門）

附属クリニックは、地域住民への医療サービス提供のため、昭和50年1月に開設し、その名のとおり、西洋医学と東洋医学の融合を図り、内科においては病気・疾患の治療はもちろんのこと、漢方薬を通じた病気の予防、病後の健康回復、慢性疾患の改善等の治療を行っている。また、整形外科では腰痛やひざ・足の痛み、捻挫・骨折といった外傷以外に、スポーツ整形にも力を入れている。更に平成26年4月からは自由診療の自然医療部門が加わり、様々な症状の患者様に対応して

きたが、令和3年3月31日をもって、同部門の診療は終了した。（※ 診療体制は「1. 診療体制」参照）

令和5年度のクリニックの運営状況は以下のとおり。

（※「2. 取扱患者数推移」「3. 医療事業収支」「4. 医療会計 部門別損益推移」参照）

◆ 患者数

クリニック全体では令和元年度からの5年間で最も多い患者数となった。診療科別では整形外科、リハビリが過去5年間で最多となった一方、内科は患者数が右肩下がりとなり過去5年間で最少となった。なお、対前年比では内科は97.1%（漢方内科89.5%）、整形外科は123.2%、リハビリは245.9%となった。

◆ 収支

収入は1,151万円、支出は1,968万円で▲816万円となった。収入は前年度比214万円（22.9%）の増加、支出が前年度比117万円（6.3%）の増加となり、前年度より赤字額が97万円減少した。支出1,968万円の内訳は医薬品が426万円、人件費が1,069万円、経費（人件費を除く、以下同じ）が473万円となり、医薬品は前年度比84万円増加、人件費は119万円増加、経費は106万円減少した。

以上